平成 30 年度　地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業
防災講座　第 2 回「わたしにもできる防災・減災」

事 業 報 告 書

日時	平成 31 年 3 月 9 日（土）14:00～16:00
目的	東日本大震災から 8 年、熊本地震から 2 年が経過した。地震が比較的少ない沖縄県でも地震や津波が来ないという事は決してない。さらに沖縄県は高潮や台風による浸水被害が多い地域である。わたしたちの住んでいる地域の災害と特色を知り、日々の生活の中でできる女性目線の防災・減災の方法を紹介する。また防災に男女共同参画の視点がなぜ必要なのかという事例を紹介しながら女性防災リーダーへの導入を図る。
対象	関心のある方
講師	一般社団法人男女共同参画おおた　理事長　坂田　静香　氏
会場	ているる１Ｆ　ふれあいサロン
参加者数	13 名　　（　女性 9 名　・　男性 3 名　）
講演内容（次第）	「わたしにもできる防災・減災」 ・地域の防災力と自助、共助、公助　・地域の人々とは？ １、大規模災害時の被災の実態 ・参考データ　東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数 ・参考データ　東日本大震災で・・・避難行動における男女差 ・昼間と夜間で人口構成が異なる（ある市の場合） ・参考データ　東日本大震災　関連死の約半数が避難所生活での疲労 【Date】熊本地震では・・・関連死は直接死の約 4 倍 【Date】東日本大震災では避難支援が必要だった人の避難行動 ・避難生活者（特に要援護者）のジレンマ ・大規模災害時には拡大する傾向の被害・困難 ２、性別・立場別に異なる被災時の困難 ①性別・立場による被災の違い ・男性と女性で異なる災害時の支援ニーズ ・参考データ東日本大震災後の睡眠に関する状態 ・参考データ東日本大震災直後からの避難所での生活 ②性別・立場による被災の違い―安全面の困難 ③性別・立場による被災の違い―家庭・社会生活面の困難 ・東日本大震災時に女性が抱えた困難｜女性たちの声 ・防災に関する意思決定の場は男性が中心 ・災害に強い地域社会を作るには ・多様な方への対応（食事の配分／仮設トイレ／食物アレルギー） 【事例】・男女共同参画の視点による避難所用品の整備① ・男女共同参画の視点による避難所用品の整備② ・男女共同参画の視点による避難所用品の整備③ ・男女共同参画型の組織作り・運営（自主防災組織）① ・男女共同参画型の組織作り・運営（自主防災組織）② 参考資料１　災害時用支援者への配慮 ～誰にとっても、安心・安全な避難所での対応は～

	参考資料２　避難所運営のポイント 参考資料３　育児・介護・介助・女性関連物資の要望についてのアンケート
講演内容 （概要）	基本として防災・減災には地域の防災力が必要。その中で自助・共助・公助のバランスが必要 １、大規模災害時の被災の実態 津波で被災された方は高齢者も多かったが、4、50 代の女性も多かった。ひとつの仮定として、日中自宅や自宅付近にいて、介護中の高齢者や育児中の幼児と一緒に避難行動をしたので逃げ遅れた方も多かったのではないか、といわれている。 たとえば平日の午後 2 時、夜 22 時など、震災の時間設定をすることで、その時間に地元にいる人はだれなのか？と想定する事ができる。細かい設定をすることにより、避難訓練の内容や会議に参加するメンバーや役割がかわるのではないか。 次に、地震や津波での直接死以外にも避難所生活での疲労やエコノミー症候群からくる関連死が多いことを紹介。熊本地震では家屋倒壊などの直接死より、関連死認定されている死者数の方が多いといわれている。 避難行動について、実際に取り組んでいる事例を紹介。日本人は、「みんな逃げていたら逃げる」という傾向があるので防災女性ネットワーク東京では避難勧告が出た時点で率先避難を実施。無駄に終わったとしても「避難」を「当たり前」にするために行っている。 避難場所について、「指定避難所」「指定外の施設」「自宅・親戚知人宅」など、どこが避難場所になるかは地域や被災状況で差が出る。また震災直後、2.3 日後、1 週間後と期間によって避難所の環境も変化し物資や情報の提供にも差が出てくる。そこで豊島区の事例を紹介。「避難所」という名称ではなく「救援センター」と変更。近隣（在宅避難）している方にも、救援物資や情報の提供を目指す取り組み。 ２、性別・立場別に異なる被災時の困難 生活環境、物資の不足と配布方法、心身の健康など、避難所生活では助かった命を無駄にしないために配慮するべきところがたくさんある。授乳室の設置や、洗濯干し場の確保（女性下着を干す場所がない）など。また、男性と女性で必要な物資も異なる。「粉ミルクはたくさん送られてきたが哺乳瓶がない」「Ｍサイズの下着はあるが、ＬサイズＬＬサイズの下着がない」など小さな事だが重要な要望である。 全国女性会館協議会が行った岡山県倉敷市への支援事例をあげ、受援力の重要さを解説。倉敷市男女共同参画課が避難所（女性を中心）にヒアリングし、要望を伝達「Ｍサイズ以上の股上が深い下着を透明袋に 5 枚ずつ入れ、サイズを表記し送って欲しい」、「ブラジャーではなく（サイズが細かいので）カップつきのブラトップを送って欲しい」など指示をいただくことにより、被災地以外の男女共同参画センターが準備し郵送する事が出来る。被災地では仕分けをするための時間や手間、人手を省く事ができる。 避難所生活での困り事は子どもや高齢者のニーズも含んでいることもあり女性の方が圧倒的に多い。男性が唯一多かったのが「テレビやパソコンが少なく、自分の欲しい情報を得ることが難しい」だった。 安全面の困難として、ＤＶや性暴力・ハラスメント、性被害も挙げられる。もともとあった症状が、精神面や喪失感が環境の変化で悪化する場合がある。「トイレを覗かれた」などの被害を受けた場合にも避難所での困難な状況だと遠慮して声をあげにくい。対策のポイントとして、「いかなる犯罪もゆるさない」という毅然とした態度を地域リーダーが持ち、情報収集や相談を男女両方のリーダーが一緒に担当するなど。また、子どもと女性への注意喚起、女性トイ

	レのみにポスターを貼るなどだけではなく、全体に向けて注意換気をする。 　社会生活面の困難として性別役割が顕在化される。女性は水汲みや、炊き出し、洗濯など。男性は力仕事やリーダーとしての役割などの負担。性別で分けるのではなく、それぞれ得意分野で仕事を分担するのもひとつである。そして、避難所全体として、避難所運営や復興協議へ女性が参画できるようになると被災者の半数を占める女性特有の要望と、栄養・衛生・育児・介護等の経験・知識が反映されるので結果的により良い運営につながる。
参加者の声	（自由記載欄より抜粋） ・現在、保育園に勤務していますが、沖縄は大きな災害がないと思い込んでいると思っています。まわりの人もあまり防災に関心がない人が多いと思っています。もっともっと発信が必要ではないかと思います。 ・坂田先生、遠い沖縄まで、ありがとうございました。沖縄は対策が本当におくれています。とっても勉強になりました。地域のために活かせるよう頑張ります。 ・女性視点での避難所での困り事、各市町村の取り組みを知る事ができてとても参考になりました。家庭に持ち帰りたいと思います。ありがとうございます。 ・各地の実際のお話が入っていてわかりやすかったです。先生の体験も更に沢山伺いたいです。 ・いろいろな事例を説明して頂き、目からウロコの情報がたくさんありました。男女参画の必要性、女性・子ども・老人の弱者の立場に立つことの重要性がわかりました。 ・地域のあり様が最大優先で考えなければならない。個人の心構えが、平常から必要で、情報はどう扱えるかをしる必要がある。 ・女性目線からの話は通常業務に活かせると思う。地域活動を積極的に行っていかないと思う ・ありがとうございました。 ・何ができるかまだわからないが、ひとまず地域のキーマンを見つけてつながることからやってみたい。
写真	 坂田　静香　氏
主催等	主催：（公財）おきなわ女性財団 共催：内閣府